

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第10号

平成25年(2013年)
7月1日 発行



大阪別院本堂狭間（二十四孝）

私は今年で41歳を迎えます。先日、同級生から「厄年となり、病氣になりました」というメールが来ました。声が出なくなる病氣で入院し、手術をしたそうです。

病氣になれば厄年など気にもならなかったはずですが。しかし、いざ病氣になると何かのせいにしたくなってしまうようです。これを仏教では『闇』といいます。病氣になったこと自体が『闇』ではなく、不都合を厄年のせいにしてしまう自分自身のあり方が『闇』なのです。

お念仏の教えを光にたとえられることがあります。この光に照らされて初めて、厄年のせいにする自分の姿がはっきりとされるのです。

お念仏を申しても病氣が治るわけではありません。お念仏を通して、普段は『闇』を『闇』とも気づかずに自分の思いだけに振り回され、そして何かのせいにせずにはいられない我が身の姿に気づかされるのです。

（寿栄松正顕）

と う ひ が ん 到 彼 岸



～大阪別院
彼岸会法話より～

常光寺 ささき たいち 佐々木太一

地にしっかりと足をつけ共に暮らす農村の人々の生活がとても印象的でした。

「われら」「共に」の大地

翻って、私たち日本人は戦後、豊かで快適な社会を築き上げてきました。物質的な豊かさだけを幸せの指標と捉え、お金さえあればいい。社会のつながりはわずらわしく、仲間がいなくてもひとりの方がむしろずっと気ままに愉快に暮らせる。そんな自己の利益だけを追求していくという考え方に深くなじんでしまい、「われら」「共に」の大地の大切さを忘れてしまいました。

つながりを断ち切り、自分の殻に閉じこもる。まわりの人々との温もりのある共同体は失われ、「家族」は言うなれば「孤族」になり、「無縁社会」を作り上げたのです。

親鸞聖人は「かようのあきびと、狛師、さまざまのものは、みな、いし、かわら、

つぶてのごとくなる、われらなり」（『唯信鈔文意』）と述べられ、「いし、かわら、つぶて」のごとくなる人々に「われらなり」と深い共感を表明されています。「われら」「共に」という連帯感が親鸞聖人のお立場でありました。

誰もが他人との比較でどちらが上か下か、どちらが勝ったか負けたか、そんなことばかりを気にし、自分が優位に立つたためのことを追求するあまりに孤立している。このような現代の日本社会にあって、本当の豊かさというのは人とつながっている「われら」という実感、「自分はここにいてもいいんだ」という安心感ではないでしょうか。

（平成25年3月17日勤修の

大阪別院彼岸会法話より）



私は先月初めてインドへ行き、お釈迦さまのご遺跡を大型バスに乗って巡拝してきました。車窓から見渡しますと、三百六十度どこまでも広がる緑の穀倉地帯です。この悠久の大地をお釈迦さまもお通りになられたことを思いますと大変感激いたしました。

そこではお釈迦さまの時代と変わらぬ農耕生活が営まれ、隣のひとの顔が見え、お互いの体温を感じながら、大

如^{によ}是^ぜ我^が聞^{もん}

往還^{おうげん}二回向^{に えこう}について

大谷大学教授 一樂^{いちらく}真^ま師^{こと}



必ず正定聚^{しょうじょうじゆ}のくらいに住するがゆえに、他力ともうすなり
（『三経往生文類』）

平成25年2月14日に大谷大学の一樂真先生を講師に迎え、法友会研修会が開催されました。

かれた根本理由だと示されました。

「自利利他」と回向

『教行信証』を著す

仏教とは自らが修行をして悟りをひらくものとされた時代に、浄土の教えは、阿弥陀仏の回向によって成り立つ仏道ゆえ、それは誰の上にも迷いを超えてひらかれていく道である。親鸞聖人自身が生きた仏教にであわれた感動がそこにあり、『教行信証』を書

「回向」とはサンスクリット語の「パリナーマ」の漢訳で、変化、方向転換を意味します。お釈迦さまが悟りを得た自利と、ご自分の目覚めた世界を人々に語る利^り他^たは、切り離しては考えられない一体のこととして仏教は成立しました。言葉を変えると悟りの智慧から慈悲への転換こそが回向の原点であるといえます。

親鸞聖人は『教行信証』の

中で、「南無阿弥陀仏」の如来の回向に、浄土に生まれる方向を与える往相^{わうさう}と、この世の衆生と共に仏道に向かわせようとするお心である還相^{げんさう}があることをあきらかにされました。またこの阿弥陀仏の二種の回向によって、自らの自利と利他という課題が成就すると強調されました。

二種回向の利益

「如来の二種の回向によりて、真実の信樂をうる人は、

二種回向を考えると、二種回向によってどんな利益をたまるのかということをはっきりさせることが大事とご指摘の上、回向というのは回^え心^{しん}がないと語れることは出来ないものである。つまりこちら側に転換がおこるという回心を抜きにはありません。

回向というのは如来のはたらきを受けたものに何が起ったか、どう生き方が変わるかということといただきました。

私は、「世を超えて世に生きるのが、往還二回向をいただいた生き方である」とのお言葉が最も心に残りました。

（長田 譲 記）

大阪探検

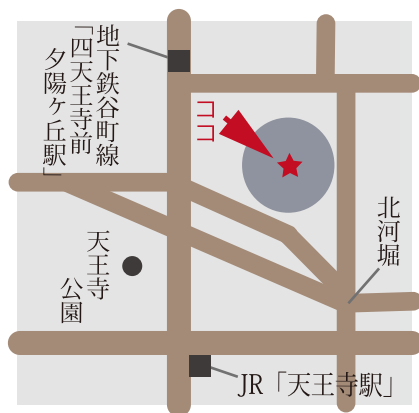
四天王寺



春のお彼岸に西大門越しに拝む夕日



あべのハルカスを眺められる親鸞聖人



大阪市天王寺区四天王寺 1-11-18
電話 06-6771-0066
地下鉄谷町線「四天王寺前夕陽ヶ丘駅」4番出口から南へ徒歩5分

極楽浄土の入口

四天王寺は、排仏派の物部守屋の討伐に際し、聖徳太子が崇仏派の蘇我馬子の戦勝を祈願して四天王像を造り、勝利の後、この像を安置する寺院として建立されたと伝えられています。今から一四〇〇年以上も前の推古天皇元年（五九三年）のことです。日本仏法最初の官寺ともいわれ、一九四六年には宗派にこだわらない全仏教的立場の和宗の総本山となりました。

親鸞聖人と四天王寺

この西大門や鳥居が西方極楽浄土の東門（入口）であるという信仰が古くからあり、春秋の彼岸会には多くの人々が門や鳥居越しに西方に沈む夕日を拝み、極楽への想いを馳せてきました。

四天王寺は、中門・五重塔・金堂・講堂が南北に一直線に並び、それを回廊が囲むという特徴のある伽藍配置をしています。そしてその西方には西大門、さらには石鳥居があります。

親鸞聖人が四天王寺を参拝されたかはさだかではありませんが、聖人は聖徳太子を「和国の教主」として大変大事にされており、太子の徳を讃仰されたご和讃には「四天王寺の四箇の院…」などと四天王寺の名前やその由来が散見されます。ひょっとしたら聖人も四天王寺に参拝されていたのではと思うと、この大阪でも屈指の歴史的寺院が非常に身近なところを感じさせていただけます。（門川崇志）

全国の

ごえんさんを訪ねて

ぶつげんじ よしだ かなえ
佛源寺（大阪） 吉田香奈枝 住職



今回は昨年住職を継職された佛源寺・吉田香奈枝住職をお訪ねしました。

昨年9月、先代のお父様を急に亡くされ、勤務していたJA（農協）を退職し、住職を継職されました。ご本人いわく「不安はいっぱいありましたが、そんなことを言ってもらえる状況ではありませんでした」「生まれ育ったこのお寺に愛着もあり、私がしなければ」と。

住職を継職されてから見えてきたことも。「父の葬儀、そして継職



本堂でのお勤め

を通して、あらためてご門徒さんに支えられていることに気づかされました」「女性住職の西光寺さんが近く（200m程先）にいてくださることがこんなにも心強いことなんだと感じました」

住職と主婦

JAでの7年半の勤務では、人と接する機会が多く、そのことが現在の法務にも活かされていると前向きなご住職。寺院活動も精力的にされ、自坊で勤められた今年



自転車でご門徒さん宅へ

の春彼岸法要では、お勤めの後に、ご門徒さんの前で一席法話をされたそうです。

今年の2月にご結婚され、現在は、住職と主婦の二足のわらじで大変なはずなのですが、見事にこなしています。趣味は韓国ドラマ鑑賞とピアノ演奏とか。

『大悲』と名づけられる前の、大阪教区・別院だよりでは、ともに編集にあたらせていただきました。大変さが一段落したら『大悲』の編集者として戻ってきてくださることを心待ちにしています。

（隅谷俊紀）

■佛源寺（ぶつげんじ）

〒591-8022

大阪府堺市北区
金岡町2321

電話 072-257-5416

Fax 072-255-4989

大阪市営地下鉄御堂筋線

「新金岡駅」より

徒歩約15分（2km）

大悲トピックス

■大阪別院・岡地康さん逝去

おかしやす
 去る4月25日、永年大阪別院を護持してくだ
 さいました岡地康さんが逝去されました。
 行年90歳。

昨年7月に、ご主人である納吉さんを亡く
 され、一周忌を待たずしての訃報でした。

先日、岡地さんの思い出を、中井賢隆・大
 阪別院輪番にお聞きしました。

※ ※ ※

岡地さんは、大阪別院が平野町より現在の
 地に移転後、半世紀にわたって別院護持に従
 事いただきました。

誰もが気持ちよくお参りできる別院であり



平成22年11月、功績が讃えられ、
 本山より褒賞を授与された岡地さん
 (左)と、現在、別院を護持してくださ
 っている娘の久美子さん

たいと語っておられた笑顔が印象深く残って
 います。

人と人のつながりを重んじ、自分のことは
 あと回し。

多くを申すまでもなく、お念仏の教えに裏
 打ちされたその生き様は、私たちの心に深く
 残るものでありましょう。

ここに、生前のご苦勞を思い、篤く感謝申
 し上げます。

■懇志御礼

奈良教区 御一同様
 熊本県人吉市 大歓寺様

■大阪教区教務所長代理

大阪教区の教務所長代理が任命されました
 のでお知らせいたします。

▽松野正剛(光念寺)

■お悔やみ 謹んで哀悼の意を表します

第三組・光福寺前坊守

玉出多穂子 行年96歳(4月2日寂)

第三組・光圓寺前住職

勝部廣正 行年97歳(5月19日寂)

ご寺院、お役に立てる商品が、
 きっと見つかる情報誌!

寺がある、法が活きる、寺の友社。



〒611-0002 京都府宇治市木幡平尾54番地の2
 TEL 0120-7676-39 FAX 0120-7676-29
<http://www.teratomo.jp>

ご希望の、ご寺院には、無料カタログをお送りします。

御本山 近 用達

株式会社 川勝法衣店

フリーダイヤル 0120-075-055

(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入

電話(075)371-0367(代)

FAX(075)371-5088

御本山佛光寺御用達

井筒法衣店

社長 幾田潤

〒600-8503

京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)

フリーダイヤルTEL 0120-075-720番

フリーダイヤルFAX 0120-075-490番

(株)小林造園

代表取締役: 小林正典

〒603-8442

京都市北区西野山東町 36-1

tel 075-491-4256

fax 075-491-9432

燦ホールディングス グループ

まごころ葬儀を創造する。



公益社 ご葬儀相談センター (24時間・365日受付・通話料無料・携帯電話OK。)

0120-567-701

※2012年5月現在 2-0131

燦ホールディングス グループ

なごみ庵



KITAHAMA

法要料理

希望の場所までお届けします。

■四條畷店
 ■瓜破店
 ■伊丹店

☎0743-78-7521

☎06-6769-0140

☎072-773-7531

※2012年5月現在 2-0132

だいひ 絵日記

- 4月4日(木) 佛青懇和会総会
 4月23日(火) 大悲の会編集会議(第10号読み合わせ)
 4月27日(土) 佛青懇和会研修会(雅楽講習会)
 5月17日(金) 大阪教区総会・法友会総会
 5月22日(水) 大悲の会編集会議(第10号読み合わせ)(妙圓寺にて)
 5月24日(金) さつき会総会
 5月25日(土) 佛青懇和会研修会(雅楽講習会)
 5月29日(水)～30日(木) 佛青懇和会聖跡参拝研修(長崎方面)
 6月15日(土) 佛青懇和会研修会(雅楽講習会)
 6月20日(木) 佛青懇和会研修会(大阪古寺名刹参拝)
 6月25日(火) 大悲の会編集会議(第10号発送作業・第11号内容検討)
 6月27日(木) さつき会研修会(恵信尼様のお手紙・講師:門川崇志 師)



5月17日の法友会総会



5月24日のさつき会総会



4月27日の佛青懇和会研修会

本山佛光寺 御用達

石の総合メーカー



株式会社 石留石材

ホームページ

<http://www.ishitome.co.jp>

本社:京都市中京区堀川御池角

TEL 075-841-1149 FAX 075-812-5826

慶事・仏事・各種会合などの際は
和光菴のお料理を御利用下さい。

0120-11-5680

仕出しは年中無休 ※年末年始除く

株式会社 和光菴

京懐石

〒543-0073
大阪市天王寺区生玉寺町3-32

<http://www.wakouan.co.jp>

和光菴



株式会社 モントラベル

〒550-0013

大阪市西区新町1-8-1 行成ビル

TEL. 06-6531-1344

FAX. 06-6531-1346

<http://www.monto.co.jp>

仏跡参拝ならお任せください!

協賛

法友会
さつき会
佛青懇和会

創業安政3年
京 佛 具 調 進
森田屋

福野御佛具處

〒601-8424

京都市南区西九条猪熊通九条上る

tel. fax 075-691-8423

三軌工業株式会社

SANKI KOGYO CO.,LTD. 近畿運輸局指定整備工場

三軌工業株式会社 自動車事業部

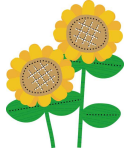
tel. 0749-52-1407

〒521-0091 滋賀県米原市岩脇 497-1

本社 軌道業(新幹線、線路保守)

tel. 0749-52-4370

〒521-0091 滋賀県米原市岩脇 483



大阪教区・別院 行事予定



大阪別院（どなた様でもお参りいただけます）

- 8月13日（火）午後2時 孟蘭盆会
 8月14日（水）午後2時 孟蘭盆会
 8月15日（木）午後2時 孟蘭盆会
 9月20日（金）午後2時 彼岸会
 法話：葦名 彰 師（妙圓寺）
 9月23日（月・祝）午後2時 彼岸会
 法話：長田 譲 師（正念寺）
 9月26日（木）午後2時 彼岸会
 法話：隅谷俊紀 師（高照寺）

法友会（住職会）

- 7月5日（金）午後7時 研修会
 講題：佛光寺門末の成立
 講師：渋谷 晃 師（岐阜・円通寺）

さつき会（坊守会）

- 7月23日（火）24日（水）
 本山坊守研修会（場所：本山佛光寺）

佛青懇和会（青年会）

- 7月18日（木）午後6時 懇親会
 屋上ビアガーデン（場所未定）
 7月27日（土）午後6時 雅楽研修会
 9月28日（土）午後6時 雅楽研修会

大悲の会（『大悲』編集会議）

- 7月23日（火）午後6時 編集会議
 8月28日（水）午後6時 編集会議
 9月25日（水）午後6時 編集会議

※場所明記のない行事は大阪別院で開催

編集後記

★前号（第9号）の「七人七色～編集者の横顔」に対して、たくさんのご感想をいただきました。「それぞれの方の個性がよく分かった」「書いている方の人となりが見えて良かった」等。編集者それぞれに違った歩みがあり、またその歩みを通していただいた教えをこれからも書かせていただきたいと思います。★大阪別院

を護持してくださっていましたが岡地康さんがお亡くなりになりました（6頁参照）。『大悲』編集会議の際、夜遅くまで会議終了をお待ちくださったにもかかわらず、こころよくお見送りくださった時の笑顔が今でも心に残っています。会員一同、哀悼の意を表します。

（隅谷俊紀）

大阪教区・別院だより『大悲』 第10号
 平成25年(2013年)7月1日発行（発行部数2000部）
 発行：大悲の会
 事務所：佛光寺大阪別院内
 〒558-0011 大阪市住吉区荻田6-11-24 電話 06-6691-1362
 郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」 加入者名「大悲の会」

大悲の会
 長田 譲(会長) 門川崇志(監事)
 隅谷俊紀(副会長) 佐々木太一
 寿栄松正顕(会計) 葦名 彰
 玉出宗順(会計)